

# こすもす便り 第12号 (2017年10月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

## ★ ご挨拶

## ★ 設定遊びの課題は？（適切な評価と反省）

こどもは何か出来ないときには「出来ない！」と訴えます。訴えを聞いた大人は、こどもが出来るようになりたいのだからということを知り、教えることが出来ます。

しかし、コミュニケーションの苦手な子どもは「出来ない」ことを上手く訴えられず、出来るようになりたいという気持ちをアピール出来ません。理解してもらえず、あるところまでいくとイライラが「沸点」に達し、泣いたりパニックになったりしてしまうことがあります。

私たち職員は、周りに助けを求められない子どもの気持ちを汲み取り、上手く伝える方法を教えていく必要があります。活動の時間に「やらない」という A 君。それだけでは A 君が理解出来ないのか興味が無いのか分かりません。「理解」と「興味」では支援の方法が違ってきます。

理解出来ないのであれば分かりやすく伝える事が必要ですし、興味が無いのなら、興味を持ってもらうような企画内容を考える必要があります。どちらも私たち職員の教え方や企画を見直して欲しいというサインだと思うことが重要です。

「分からない A 君、やらない A 君の問題」という見方では私たちの支援のスキルは向上しません。活動の課題は、年齢の違いだけではなく子どもの特性や能力を的確に評価しながら行います。活動にはいくつかのねらいがあります。内容に幅を持たせ、一人ひとりの目標に沿った方法で、子どもの意図を汲みながら、どこまでどのような方法で提供するのかを判断し、対応を考えます。

大人は子どもを評価しながら関わり、指導を進めていきますが、一方で、子どもも大人をしつかり評価しています。子どもの興味や能力を無視した取り組みを続けていくと、大人を嫌いになり、反発や拒絶を生んでしまい、支援など出来なくなります。私たち職員は、子どもから評価されていることを忘れてはいけません。その評価は全身で表すパニックも含まれます。

パニックは、単純な言葉やコミュニケーションの課題のせいばかりではないのです。

10月の日々の個別支援記録から「考察」の欄を設けることにしました。深い考察を適切な課題に繋ぐという事を分かりやすくするために「子どもの様子」欄には事実が記録され、それを考察して、評価や反省を適切な課題に繋いでいることを、文字で記載して伝えることにしました。

子ども達にとっての活動は「楽しむ」ことが目的で、目標や評価は大人への課題なのです。楽しめば楽しむほど、子ども達は知らず知らずのうちに着実に療育的目標に近づいていくのですから「こすもす」では遊びが学びなのです。

## ★ 悔しいという思い

思うように行かないと大騒ぎをしたり、泣いて悔しがる子どもがいます。

「出来た＝○」「できない＝×」という二つの見方で判断する気持ちが強いのですが、○か×で明確に判断できることよりも、「△＝グレーゾーン」の方が遙かに多いのが現実社会です。

子どもは出来た、出来ないの二分法での判断から、「出来たり出来なかったりする」体験を積み「絶対に出来る」という考えを「出来ないかもしれない」と言う考えに修正していきながら、「出来なかったら練習して出来るようになるろう」というように柔軟な見方が出来るようになるのです。

Aくんは柔軟さが苦手なため、出来ないと絶対に「×」だと思い込んでしまい、思っていた現実と違うとき現実を許せなくなり、泣いたり大騒ぎになったりします。A君は「出来ないかもしれない」という見方を経験していきながら「～かもしれない」という見方が出来るようになると、「多分」「おそらく」という言葉の意味を理解し、使えるようになるでしょう。物事を柔軟に受け止めることが出来るようになるので、パニックは減少していきます。

あきらめではなく挑戦するための変換作業がスムーズになるのです。

「悔しくて泣き叫ぶ子」には、出来るようになりたいという目的意識があります。その目的を達成したいという意欲も持っています。その思いは子どもの成長にとっては重要なものです。結果ばかりではなく、取り組む姿勢や頑張りを誉めて評価します。ゆっくりで良いのです。悔しさを分かってもらい、出来るようになって承認されたいという思いを評価していくのです。

人から教わることの楽しさを体験していき、子ども同士の「友達と遊びたい」という気持ちに牽引されて、出来るようになりたいという気持ちは育っていきます。

## ★ 共同制作が完成しました

今回は、ハロウィンの飾りを制作しました。出来上がりがイメージできるよう、今回のテーマであるハロウィンの説明を始めに行い、5回に分けて部分を制作しました。

「折り紙」「切り絵」「ぬり絵」など5回の活動を通して制作してきたものですが、色彩や配置、絵の表情などしっかりハロウィンがイメージされていた様です。

一回一回の活動で作る作品は一人ひとりの「個性あふれる小さな作業ですが、それらが集合すると見事に調和にとれた作品になりました。それぞれが主張し合いながらも認め合い、全員の個性が生きた作品になりました。

友達同士の繋がりが、一つの模造紙にしっかり見えます。11月は「秋の風景」を制作する予定です。

【発行】 放課後等デイサービス こすもす 管理者 中島通子  
〒880-0916 宮崎市大字恒久4942-4  
☎ 0985-72-3869 FAX-72-3365  
携帯電話 090-8841-7024  
E-mail patorihoudei@yahoo.co.jp